

「弘前大学アートワールドひろさきキュアプログラム」受講科目について

学期及び授業時間等

- ・前期 4月1日～9月30日（令和5年度授業期間：4月11日～8月4日）
- ・後期 10月1日～3月31日（令和5年度授業期間：10月2日～2月9日）
- ＊一部の授業において、8・9月、2・3月の期間に集中授業により行う授業もあります。

・授業時間

時 限	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
時 間	8:40 ～ 10:10	10:20 ～ 11:50	12:40 ～ 14:10	14:20 ～ 15:50	16:00 ～ 17:30

受講講義室

講義室は4月に改めてご案内します。なお、講義室は授業開始後、受講者数調整等の関係で変更になることがあります。教員の指示や、変更のお知らせ（掲示板等）にご注意ください。

パソコン・インターネット環境の準備

本学では、シラバスの閲覧、各種掲示板の確認、メディアを使用した授業の受講など、学習活動の様々な場面においてパソコンを使用します。そのため、本学ではノートパソコン等及びインターネット接続環境の確保を受講前に準備していただくことを推奨しています。

カリキュラム

カリキュラムの構成

A. 青森および弘前の芸術支援活動を概観し、「芸術」をめぐる基本的な概念と理論を理解する。

[2科目 (45時間)]

B. 芸術作品を知り、その鑑賞のコツを身につける。[2科目以上選択 (45時間)]

C. A及びBで学んだことを活かして、プロデュースの演習を行う。[1科目 (22.5時間)]

D. A～Cを修得した上で、プロデュースの実習を行う。[1科目 (22.5時間)]

＊C、Dは履修期間2年目に受講してください。

構成	授業科目の名称	時間数	必要時間数
A	くらし・文化 ー地域の芸術文化振興ー	22.5	45
	思想 ー美学入門ー	22.5	
B	芸術 ーモダンアートー	22.5	45
	地域の芸術・文学 ー日本美術史ー	22.5	
	地域の芸術・文学 ー弘前の教会建築ー	22.5	
	地域の社会・文化 ーオンライン演奏会実習ー	22.5	
	国際地域・社会・文化 ー美術史研究入門ー	22.5	
	国際地域・社会・文化 ー音楽史研究入門ー	22.5	
	国際地域・社会・文化 ートランスナショナルリズムの音楽ー	22.5	
	世界の芸術・文学 ー西洋美術史入門ー	22.5	
	世界の芸術・文学 ーコンテンポラリーアートー	22.5	
	世界の芸術・文学 ー近現代の音楽文化史ー	22.5	

	世界の芸術・文学 ー舞台芸術概論ー	22.5	
C	地域の多様性と活性化 ー地域とアートワールドー	22.5	22.5
D	キャリアデザイン ーアート・インターンシップー	22.5	22.5
	計	337.5	135

開講科目

各授業科目の開講学期、曜日時限、授業概要等は以下のとおりです。

なお、授業科目の詳しい内容は、4月1日以降の公開となりますので、別紙3（2022年度シラバス）により、授業の内容等を参考にしてください。

4月に入りましたら、あらためて本学ホームページにて最新情報を確認してください。

シラバス（教養教育） <https://www.hirosaki-u.ac.jp/education/syllabus/>

授業科目名	くらし・文化ー地域の芸術文化振興ー
開講学期	前期
曜日時限	集中
担当教員（教員所属名）	朝山 奈津子（教育学部），出 佳奈子（教育学部），袴田 麻祐子（非常勤講師）， 福田 裕美（非常勤講師）
必修／選択	必修
授業としての具体的到達目標	○青森と関わる芸術に関する見識を深めること ○芸術に関する知識を活用して、青森の芸術と地域社会の多面的な関わりについて理解すること
授業の概要	○制度としての芸術、地域の文化格差、文化権などの観点から、世界・全国と青森・弘前の現状を理解する。 ○地域の芸能や伝統文化の振興政策について理解する。
備考	

授業科目名	思想ー美学入門ー
開講学期	未定 2月中旬頃確定
曜日時限	集中
担当教員（教員所属名）	森 功次（非常勤講師），出 佳奈子（教育学部）
必修／選択	必修
授業としての具体的到達目標	○思想，宗教，哲学，歴史，倫理学あるいはこれらの学問の近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて，既成の前提をその根拠にさかのぼって問い返す批判的思考を体得すること ○美学、芸術哲学およびその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて，日常社会への理解を深めること ○身の回りの文化的問題について議論できる力をつけること
授業の概要	○現代英語圏の美学（いわゆる分析美学）の基礎的な議論、概念について学

	習し、理解を深める。 ○美学の視点を用いて、身近な文化状況のありかたや現代の社会問題について考察する。
備考	

授業科目名	芸術－モダンアート－
開講学期	前期
曜日時限	木曜日，5・6時限
担当教員（教員所属名）	出 佳奈子（教育学部）
必修／選択	選択
授業としての具体的到達目標	○芸術ならびにその近接領域についての学識を得ること ○上記学問の知識や技能に基づいて、演奏表現や作品制作の実践や鑑賞を理解すること
授業の概要	18世紀～20世紀前半にかけての近代美術（モダンアート）の歴史的展開を概観します。たとえば、モネやゴッホ、ピカソのような画家の名前を聞いたことがある人は多いでしょう。また、ピカソの独特な表現を目にして戸惑いを覚える人も一定数いると思います。ヨーロッパ近代に生み出された数々の美術作品は、約200年を通じて、その外観を大きく変化させていきました。この変化は「見た目」だけではなく、表現内容や鑑賞のあり方にも共通して見られるものです。そしてこの時期の美術は、その後の美術受容の成り立ちやアートのグローバル化にも大きな影響を与えています。この授業では、可能であればこの時代のアーティストによる表現を体験したりしながら（ちょっとした制作）、いったいなぜこのような変化が生じたのかという疑問を起点として、モダンアート理論の理解を目指します。
備考	

授業科目名	地域の芸術・文学－日本美術史－
開講学期	後期
曜日時限	金曜日，7・8時限
担当教員（教員所属名）	出 佳奈子（教育学部）
必修／選択	選択
授業としての具体的到達目標	○地域で生み出された多様な芸術・文学に触れることを通して、豊かな表現力を身につけること
授業の概要	○江戸時代までの日本美術史の流れを時系列的に概観します。 ○それぞれの時代の表現上の特徴を把握します。 ○個々の作品がうみだされた文化的背景や他国との関係について学びます。 ○津軽藩とかかわりのある美術品に注目し、日本美術史全体のなかに位置づけていきます。

備考	
----	--

授業科目名	地域の芸術・文学－弘前の教会建築－
開講学期	未定
曜日時限	未定
担当教員（教員所属名）	
必修／選択	選択
授業としての具体的到達目標	
授業の概要	
備考	

授業科目名	地域の社会・文化－オンライン演奏会実習－
開講学期	後期
曜日時限	月曜日，3・4時限
担当教員（教員所属名）	小田 直弥（教育学部）
必修／選択	選択
授業としての具体的到達目標	<p>○地域の社会と文化を人間の生活の営みとの関連で考察し，その仕組みを理解すること</p> <p>○上記理解に基づいて，演奏表現や作品制作の実践を理解すること</p>
授業の概要	<p>○音楽文化の維持発展の機会である演奏会は、近年、オンラインをフィールドとした新たな広がりを見せている</p> <p>○地域の社会と文化のより良い発展を目指す戦略として今日注目されているのもオンラインである</p> <p>○この授業では、県内の文化財1つに着目し、その周縁を探究することで得られた地域の社会や文化に関する理解を着想源として、オンラインでの配信を前提とした演奏会動画の作成・公開（Youtube）を行う</p> <p>○地域の文化資源のもつ歴史的コンテキストと、演奏や動画ならではの表現方法を組み合わせることで、地域におけるこれからのオンライン活用の在り方について実践のなかで検討を行う</p> <p>○受講生は何かしらの演奏ができることが望ましく、西洋音楽の視点から、レッスンを行うことは可能である。一方で、企画構成・撮影・動画編集も本授業で扱うことから、それらが得意な学生においては、必ずしも演奏能力は必須ではない。</p>
備考	

授業科目名	国際地域・社会・文化－美術史研究入門－
-------	---------------------

開講学期	後期
曜日時限	月曜日, 9・10 時限
担当教員 (教員所属名)	出 佳奈子 (教育学部)
必修/選択	選択
授業としての具体的到達目標	○異なる国の地域・社会・文化などを理解することを通して, 多元的な知性・知恵・実践的教養能力を身につけること
授業の概要	○美術史研究の方法論を理解する。 ○社会における美術やイメージの多様な役割について考察する。 ○ペストという致死率の高い疫病と絵画メディアとのつながりを考察する。
備考	

授業科目名	国際地域・社会・文化ー音楽史研究入門ー
開講学期	後期
曜日時限	金曜日, 5・6 時限
担当教員 (教員所属名)	朝山 奈津子 (教育学部)
必修/選択	選択
授業としての具体的到達目標	○異なる国の地域・社会・文化などを理解することを通して, 多元的な知性・知恵・実践的教養能力を身につけること
授業の概要	○作曲家ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (1685-1750) の音楽活動と主要作品の概要を掴む。 ○音楽の研究方法・研究課題の概要を見渡し、「音楽学」、「音楽史」という学問分野の成立と目的を知る。
備考	

授業科目名	国際地域・社会・文化ートランスナショナルリズムの音楽ー
開講学期	後期
曜日時限	月曜日, 9・10 時限
担当教員 (教員所属名)	諏訪 淳一郎 (国際連携本部)
必修/選択	選択
授業としての具体的到達目標	○異なる国の地域・社会・文化などを理解することを通して, 多元的な知性・知恵・実践的教養能力を身につけること
授業の概要	音楽を聴くことは、生物としてのヒトが人間という存在であることの重要な一条件である。しかし、世界の音楽文化は多様であって、その背景には複雑な事情が存在している。この授業では、多元的な知性を育みながら世界の中の一地域で暮らすことの特異性と、人間の音楽による営みの普遍性という二つの側面を有する音楽がもつ文化的な力について理解を深める。
備考	

授業科目名	世界の芸術・文学－西洋美術史入門－
開講学期	前期
曜日時限	木曜日，7・8時限
担当教員（教員所属名）	宮坂 朋（人文社会科学部）
必修／選択	選択
授業としての具体的到達目標	○世界の芸術・芸能に関する見識を深めること ○世界の芸術・芸能に関する知識を活用して，世界の美術作品や音楽などを題材に，人間文化の諸相を理解すること
授業の概要	○西洋美術史の大きな流れをつかむ ○作品の見どころを理解する
備考	

授業科目名	世界の芸術・文学－コンテンポラリーアート－
開講学期	後期
曜日時限	集中
担当教員（教員所属名）	三木 あき子（非常勤講師），出 佳奈子（教育学部）
必修／選択	選択
授業としての具体的到達目標	○世界のすぐれた芸術・文学作品に触れることを通して，高い知性と豊かな感性を身につけること
授業の概要	○国内外のコンテンポラリーアートに関し，弘前れんが倉庫美術館の学芸を担当する各専門家が，多様なアプローチからレクチャーを行います。
備考	

授業科目名	世界の芸術・文学－近現代の音楽文化史－
開講学期	前期
曜日時限	集中
担当教員（教員所属名）	沼野 雄司（非常勤講師），朝山 奈津子（教育学部）
必修／選択	選択
授業としての具体的到達目標	○世界の芸術・芸能に関する見識を深めること ○世界の芸術・芸能に関する知識を活用して，世界の美術作品や音楽などを題材に，人間文化の諸相を理解すること
授業の概要	○20世紀以降の音楽文化について，その社会的背景を踏まえて音楽の創作と実践の歴史を学ぶ。 ○グローバル化する世界の中で，古今東西の音楽文化がどのように影響しあい，展開しているかを理解する。
備考	

授業科目名	世界の芸術・文学－舞台芸術概論－
開講学期	後期
曜日時限	集中
担当教員(教員所属名)	朝山 奈津子(教育学部), 小塩 さとみ(非常勤講師), 舘 亜里沙(非常勤講師)
必修/選択	選択
授業としての具体的な到達目標	○世界のすぐれた芸術・文学作品に触れることを通して, 高い知性と豊かな感性を身につけること
授業の概要	○東西の舞台芸術(能、文楽、歌舞伎、バレエ、オペラ、演劇など)について、その歴史を踏まえつつ、ドラマ・音楽・美術・演出などの総合的な観点を身につける。 ○各舞台芸術ジャンルで古典ないしスタンダードなレパートリーと称される演目について、現代における上演の意義を考察する。
備考	

授業科目名	地域の多様性と活性化－地域とアートワールド－
開講学期	前期
曜日時限	水曜日, 7・8時限
担当教員(教員所属名)	朝山 奈津子(教育学部), 出 佳奈子(教育学部), 小杉 在良(非常勤講師)
必修/選択	必修
授業としての具体的な到達目標	○地域が孕む様々な問題や地域が持つ様々な魅力を理解すること ○地域の問題や魅力を理解した上で, 地域活性化の方策を考察すること
授業の概要	○地域に合った「アート」の持続可能性を戦略的に学びます。 ○「なんでもアート」に陥らないために, アートの概念を学びます。 ○弘前の「アートワールド」の問題点を見つけ出し, その改善や解決のために何ができるか, どこにどのように働きかけるべきかを考えます。 ○以上により, アートそれぞれの「カッコよさ」をアピールする手法を学びます。
備考	2年目以降に受講してください。

授業科目名	キャリアデザイン－アート・インターンシップ－
開講学期	後期
曜日時限	水曜日, 7・8時限
担当教員(教員所属名)	出 佳奈子(教育学部), 朝山 奈津子(教育学部), 小杉 在良(非常勤講師)
必修/選択	必修
授業としての具体的な到達目標	○卒業後のキャリア形成において, 必要となる様々な知識や技能, 態度を理解・体得すること

	<p>○自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと</p>
授業の概要	<p>○弘前れんが倉庫美術館の展覧会に関連する美術館プログラムを企画実施します。</p> <p>○文化施設における教育普及活動（ミュージアム・エデュケーション）や、展覧会および関連プログラム企画、また広報の専門家によるレクチャーを交えながら学び、実践に移します。</p> <p>○美術館における複数の職種について、学習・経験することによって、アートに関連するキャリア形成の実際を理解します。</p>
備考	<p>2年目以降に受講してください。</p>